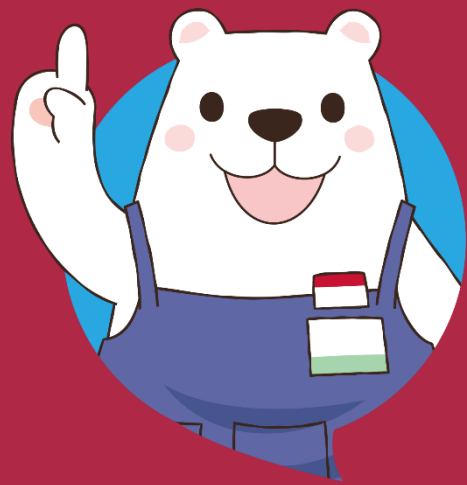




名城大学附属図書館

大学図書館の活動を可視化する データ活用の実務

－図書館利用統計・学術情報基盤実態調査・決算データ・利用者アンケートから－

名城大学附属図書館

本日のテーマ

大学図書館の活動を可視化するデータ活用の実務



大学図書館に存在するさまざまなデータを用いて

- ① 図書館の活動を可視化
- ② 図書館運営の改善計画を策定



「課題を洗い出して改善する図書館」…を目指したい

当館の現状

学生数が多いものの…専任職員はごく少数
図書館の動向に精通した職員がいない…短期間で異動
狭隘化、除籍、ジャーナル高騰…手つかずの問題が山積
経営のスリム化が進む一方…サービスは発展途上



しかも数年後には本館リニューアル…
新しい方針を示す必要に迫られている

本講演は…

名城大学附属図書館が

限られた人員で

どのように自館の実態を把握し

施策に繋げていくか

実際の事例から、ポイントや
反省点を報告します。

本日の内容

1 名城大学附属図書館の基本情報

2 事例紹介

【はじめに】 データを集める

【分析結果】 データから見る名城大学附属図書館

3 “データ活用の実務”で感じたこと

1

名城大学附属図書館の基本情報

名城大学附属図書館のあゆみ

1950年4月

1959年9月

1986年5月

2007年2月

2016年4月

附属図書館開館
(駒方校舎)

学部分館が
続々と開館

伊勢湾台風の被害
中央図書館焼失

附属図書館新館
開館 (分館統合)

都市情報学部分館開館

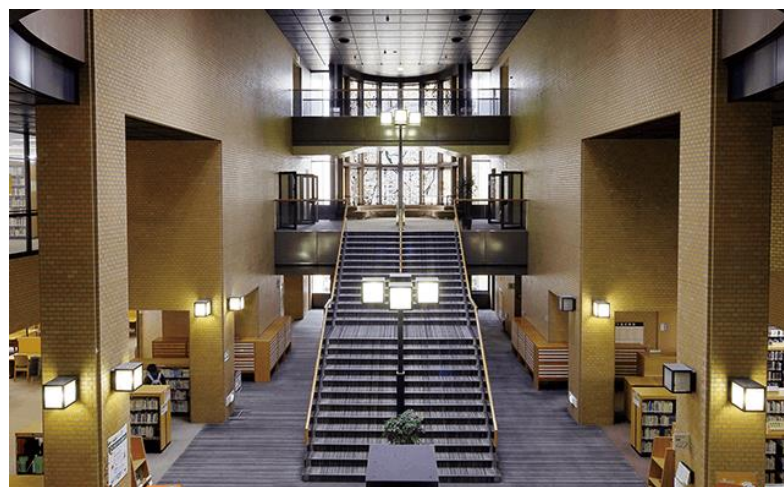
薬学部分館
リニューアル

ナゴヤドーム前
キャンパス図書館開館

都市情報学部分館閉館

名城大学附属図書館の基本情報

	本館	薬分館	ドーム前
竣工	1986年3月	2007年2月	2016年4月
延面積 (㎡)	12,755	856	1,100
蔵書数 (図書：冊)	1,017,011	64,321	130,245
蔵書数 (雑誌：種類)	20,450	711	816
閲覧座席数	1,041	149	286
入館者数 (2021年度)	161,888	29,718	49,691
貸出冊数 (2021年度)	39,228	2,634	19,518



2

事例紹介

【はじめに】 データを集める

出発点：附属図書館の課題

狭隘化が深刻

問題が先送りにされている

運用がバラバラ

学部分館体制の名残が残っている

専任職員の現場感覚が薄い

レファレンスも含め、ほぼ全面業務委託となった

経営上は【コストセンター】

執行部へのアプローチは適切か？

古き良き図書館

新しい時代に対応した機能などが付加できていない

大学図書館運営に関するデータ例（名城大学附属図書館の場合）

自館の基本情報

入館者数
貸出利用者数
貸出冊数
視聴覚資料利用者数
図書館への声
など

他館との比較

大学規模、図書館
数、職員数、施設面
積、座席数、蔵書冊
数、電子情報資料、
図書・雑誌受入数、
開館日数など。

利用統計データ

自校データ

学術基盤実態調査

文部科学省

決算データ

自校データ

利用者アンケート

自校データ

経営的視点

決算
資産（和書・洋書）
消耗（和雑誌・洋雑誌）
電子資料 など
→学部等单位

定量的調査

利用度
利用目的
利用・活用方法
充実・改善希望
環境・サービスの満
足度など

データを集めるうえで意識した点

収集する公的機関のデータの選別

- 1 種類を増やしすぎないこと
- 2 継続的に収集できるデータであること

アンケート回収と潜在的利用者へのアピール

- 1 学生ホール、食堂など、学生が集まる場所で広報
- 2 心理的ハードルを下げる 回答目安時間の明示、QRコードなど回答までの導線
キャラクターを用いたゆるい広報…
- 3 回答者へのノベルティの進呈 参加することによるメリットを提示

2

事例紹介

【分析結果】 データから見る
名城大学附属図書館

分析内容

- ① 図書館利用統計（2021年度）
- ② 学術情報基盤実態調査
- ③ 決算データ
- ④ 附属図書館利用者アンケート
- ⑤ 4つのデータからわかったこと

① 図書館利用統計（2021年度）

閲覧サービス

開館日数 ■ 280日（3館平均）

入館者数 ■ 241,297人

学生一人当たり利用回数 ■ 16回

学生一人当たり貸出冊数 ■ 4冊

参考調査

学生一人当たり利用件数 ■ 0.4件

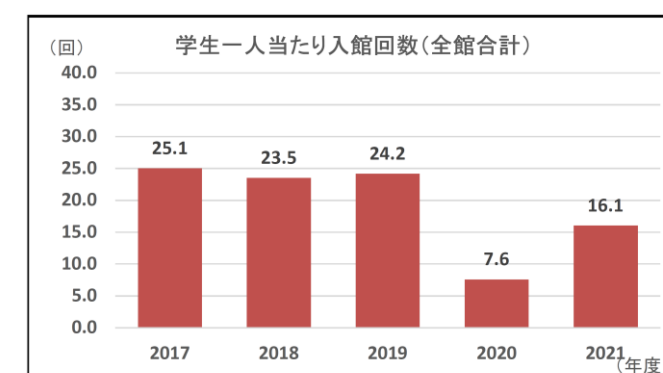
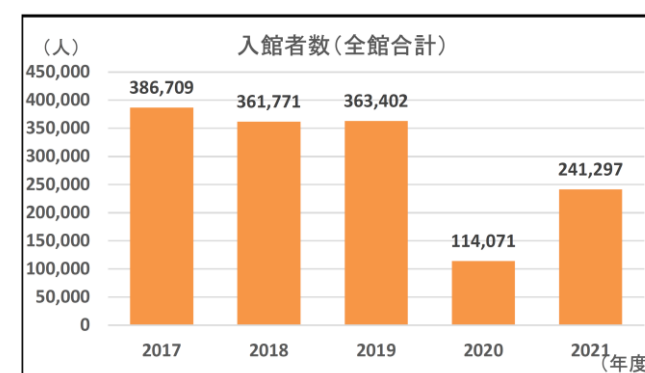
相互利用

相互貸借 受付 ■ 40件

依頼 ■ 72件

文献複写 受付 ■ 219件

依頼 ■ 297件



課題の検証をする前の現在地の確認作業

② 学術基盤実態調査

【調査項目】

1.職務内容別内訳

2.施設・設備

- 2-1 面積・施設用途、2-2 閲覧座席数、2-3 書架収容力
- 2-4 図書館利用者端末台数

3.蔵書数

4.図書・雑誌受入数

- 4-1 図書受入数、4-2 雑誌受入数

5.サービス状況

- 5-1 開館日数、5-2 館外貸出冊数
- 5-3 参考業務（レファレンス・サービス）利用件数
- 5-4 文献複写件数、5-5 その他の学習・研究サポート
- 5-6 図書館間相互協力

6.経費

- 6-1 図書館資料費の内訳、6-2 図書館・室運営費の内訳

7.外部委託業務

8.図書館の公開

9.他機関との連携

10.電子図書館的機能

11.機関リポジトリ

12.課題

- 12-1 組織・運営面、12-2 経費・設備面、12-3 機能面
- 12-4 外国雑誌及び電子ジャーナル、12-5 機関リポジトリ

調査の目的

国公立大学の学術情報基盤

（大学図書館、コンピュータ及びネットワーク等）についての現状を明らかにし、その改善の基礎資料とすることを目的とする。

調査開始年

昭和41年（1966年）

調査の根拠法令

統計法

調査の対象

国公立大学

抽出方法

悉皆調査（全数調査）

国公立の設置形態や
設置学部数による集計が
行われているため
似た属性の大学との比較が容易

以降のデータ出典：学術情報基盤実態調査（令和3年度 大学図書館編）

② 学術基盤実態調査

私立大学A

8学部以上 46校

※本学を含む

私立大学B

5～7学部 87校

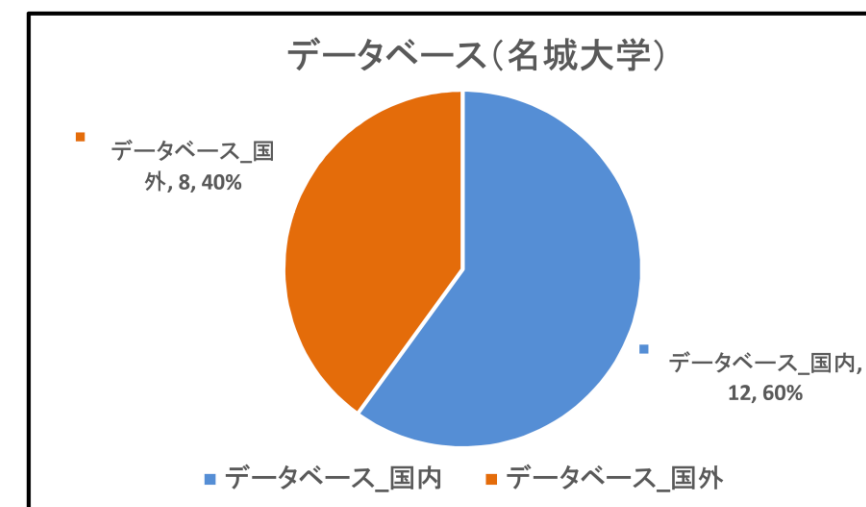
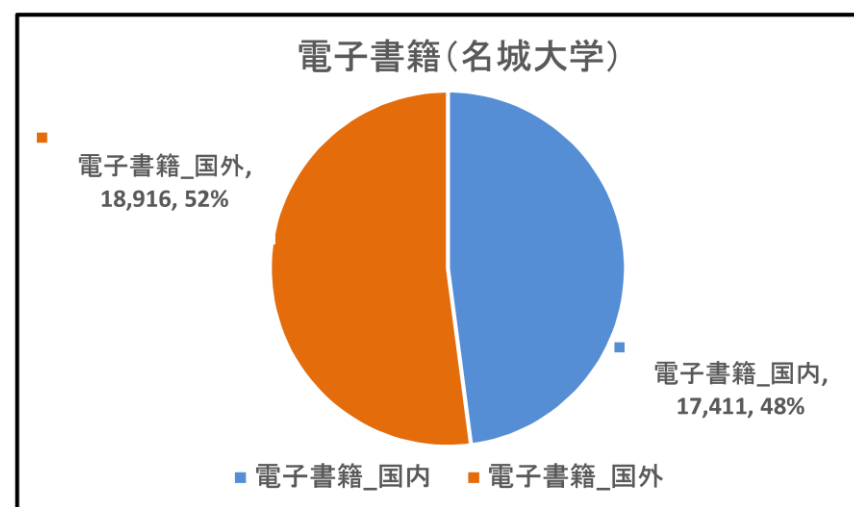
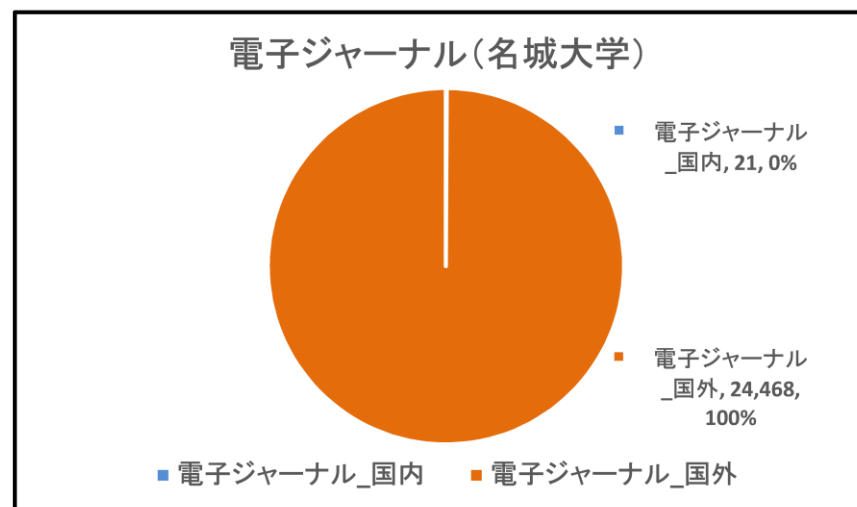
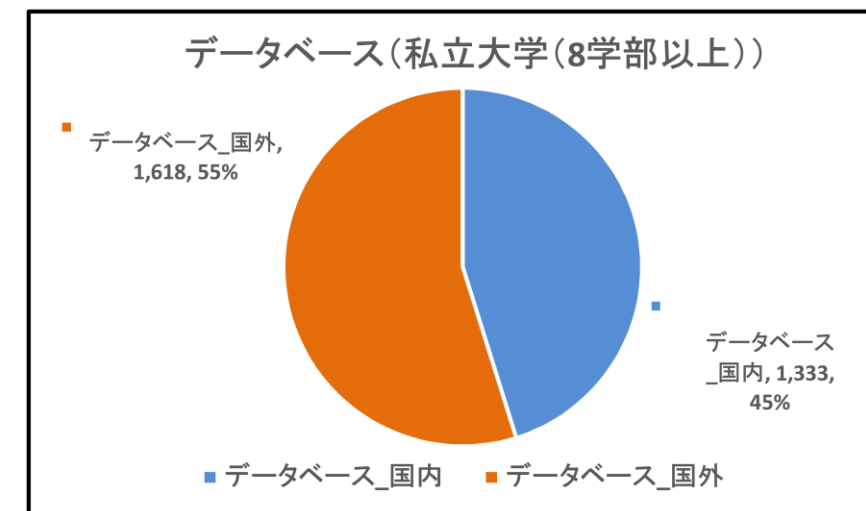
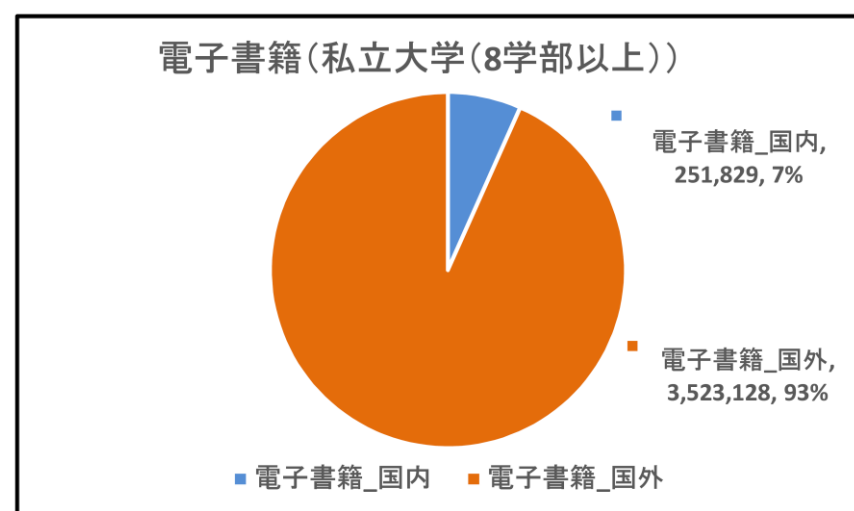
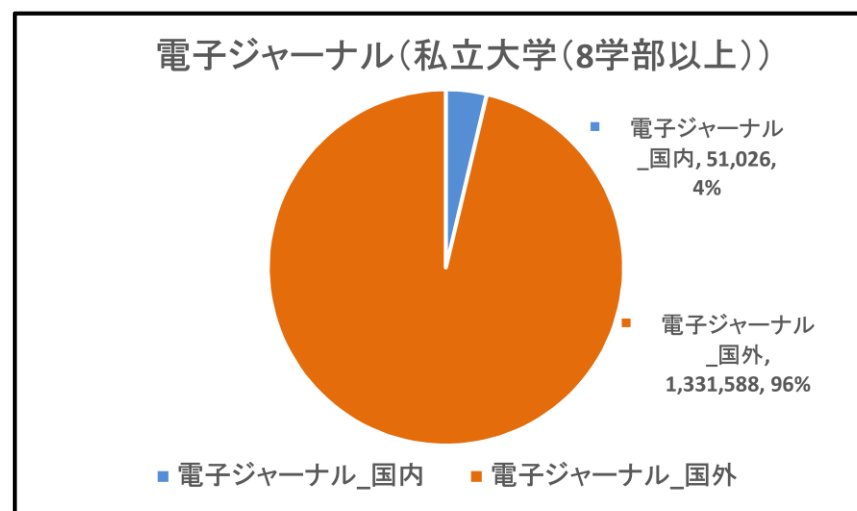
私立大学C

2～4学部 275校

私立大学D

単科大学 217校

② 学術基盤実態調査【蔵書数の比較】



当館

電子ジャーナル | 国外 99.9%

電子書籍 | 国内/国外が半々

データベース | 国外 40%

同規模私立大学と比率に差
学部構成や購入件数などの
要素についても検証が必要

② 学術基盤実態調査【組織・運営面の課題意識】

大学図書館の管理運営において、解決すべき課題のうち、重要と考えているもの（令和3年5月1日現在）

組織・運営面	私立大学A		私立大学B		私立大学C		私立大学D		私立大学全体	
	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)
専門性を有する人材の確保	38	82.6	67	77.0	211	76.7	147	67.7	463	74.1
現職職員の育成 キャリアパスの確保	41	89.1	56	64.4	181	65.8	130	59.9	408	65.3
教員との協働、連携	34	73.9	69	79.3	212	77.1	153	70.5	468	74.9
外部委託職員の活用	22	47.8	35	40.2	69	25.1	41	18.9	167	26.7
大学全体における大学図書館の 位置付けの明確化	34	73.9	53	60.9	173	62.9	119	54.8	379	60.6
目標・計画の策定と その点検・評価	21	45.7	39	44.8	123	44.7	85	39.2	268	42.9
学内における図書館長のリーダー シップを発揮できる体制の整備	15	32.6	17	19.5	54	19.6	42	19.4	128	20.5

赤字…私立大学全体より10ポイント以上高い

…カテゴリAとBの間に10ポイント以上の差がある

青字…私立大学全体より低い

② 学術基盤実態調査【機能面の課題意識】

大学図書館の管理運営において、解決すべき課題のうち、重要と考えているもの（令和3年5月1日現在）

機能面	私立大学A		私立大学B		私立大学C		私立大学D		私立大学全体	
	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)
利用者サービスの向上	40	87.0	76	87.4	244	88.7	182	83.9	542	86.7
電子情報の提供・保存環境の整備	38	82.6	74	85.1	202	73.5	132	60.8	446	71.4
情報リテラシー教育の充実	33	71.7	61	70.1	197	71.6	125	57.6	416	66.6
学生の自学自習のための支援 (ラーニングコモンズの整備、レファレンス等)	37	80.4	69	79.3	210	76.4	142	65.4	458	73.3
研究者の研究活動のための支援 (学術情報への的確で効率的なアクセスの確保等)	34	73.9	52	59.8	183	66.5	114	52.5	383	61.3
大学の国際化への対応 (言語に堪能な職員の確保、利用環境の整備等)	20	43.5	24	27.6	70	25.5	43	19.8	157	25.1
社会・地域との連携の強化	19	41.3	32	36.8	110	40.0	84	38.7	245	39.2
視覚障害者等の読書環境の整備の 推進に関する法律への対応	17	37.0	16	18.4	42	15.3	26	12.0	101	16.2
研究データ管理等 オープンサイエンスへの対応	13	28.3	24	27.6	53	19.3	24	11.1	114	18.2

赤字…私立大学全体より10ポイント以上高い

…カテゴリAとBの間に10ポイント以上の差がある

青字…私立大学全体より低い

② 学術基盤実態調査【経費・設備面の課題意識】

大学図書館の管理運営において、解決すべき課題のうち、重要と考えているもの（令和3年5月1日現在）

経費・設備面	私立大学A		私立大学B		私立大学C		私立大学D		私立大学全体	
	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)	大学数	構成比(%)
図書購入に係る経費の確保	30	65.2	54	62.1	200	72.7	140	64.5	424	67.8
外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費	42	91.3	74	85.1	231	84.0	137	63.1	484	77.4
外部資金の獲得	17	37.0	16	18.4	51	18.5	33	15.2	117	18.7
予算の効率的な執行	29	63.0	47	54.0	130	47.3	99	45.6	305	48.8
図書館施設整備に係る経費の確保	36	78.3	54	62.1	202	73.5	129	59.4	421	67.4
資料収蔵スペース狭隘化の解消	33	71.7	73	83.9	214	77.8	140	64.5	460	73.6
資料保存・劣化防止のための環境整備	28	60.9	54	62.1	128	46.5	104	47.9	314	50.2

赤字…私立大学全体より10ポイント以上高い

青字…私立大学全体より低い

…カテゴリAとBの間に10ポイント以上の差がある

② 学術基盤実態調査【まとめ】

共通の課題 | 組織・運営面 | 経費・設備面

異なる課題 | 機能面

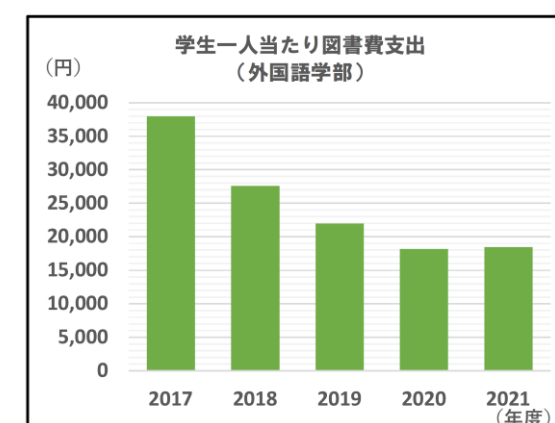
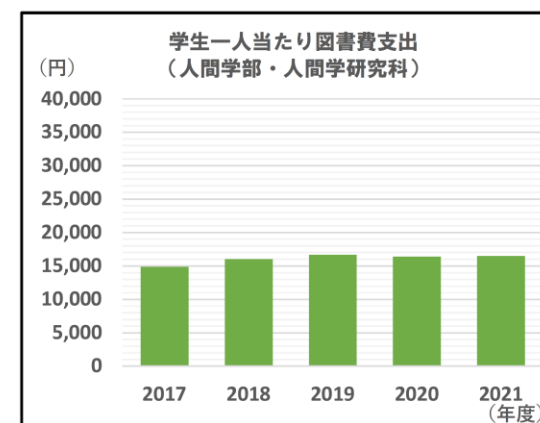
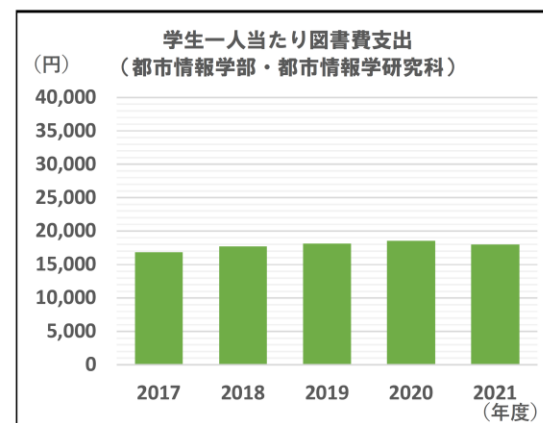
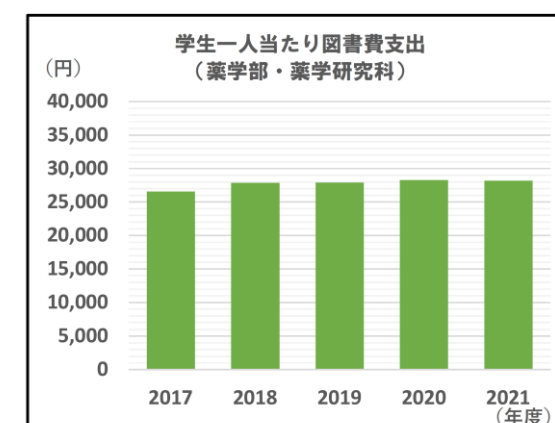
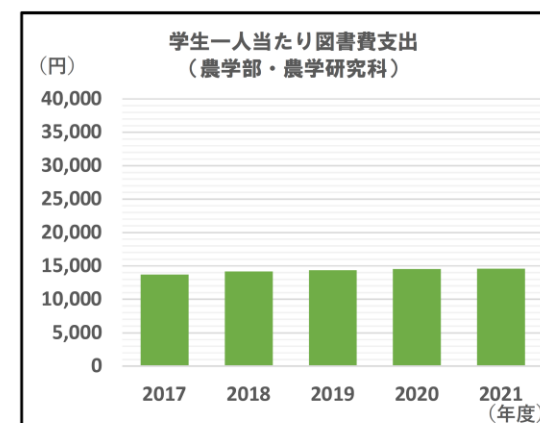
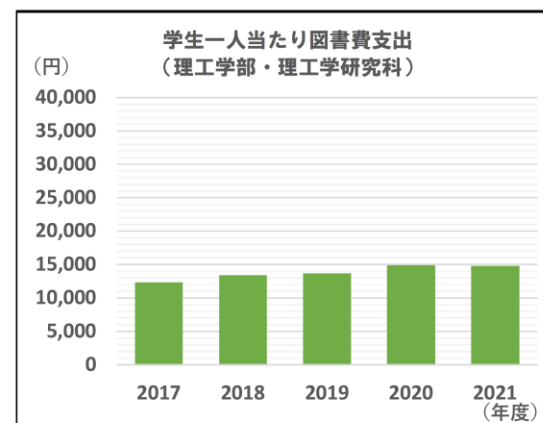
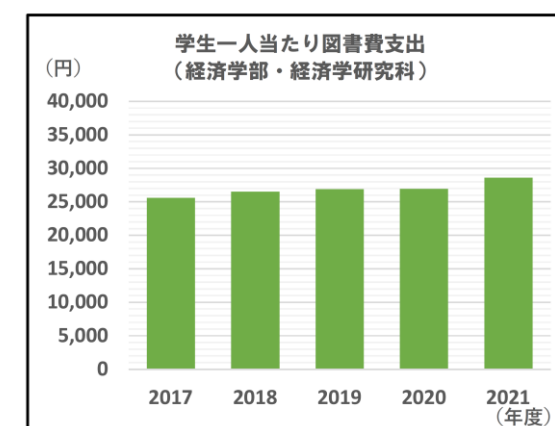
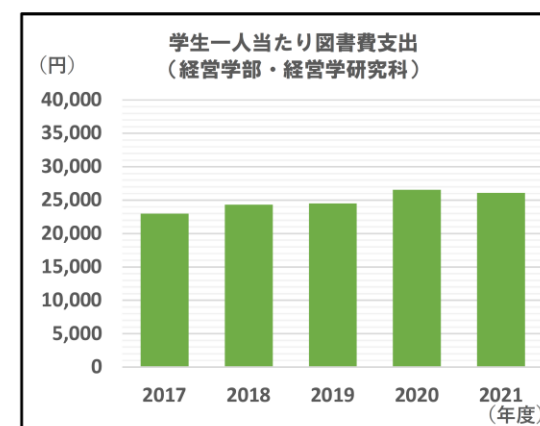
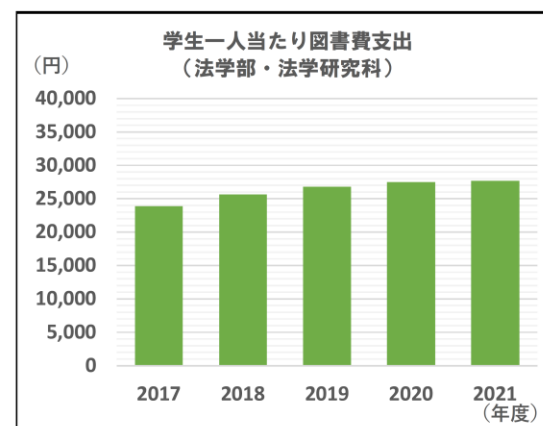
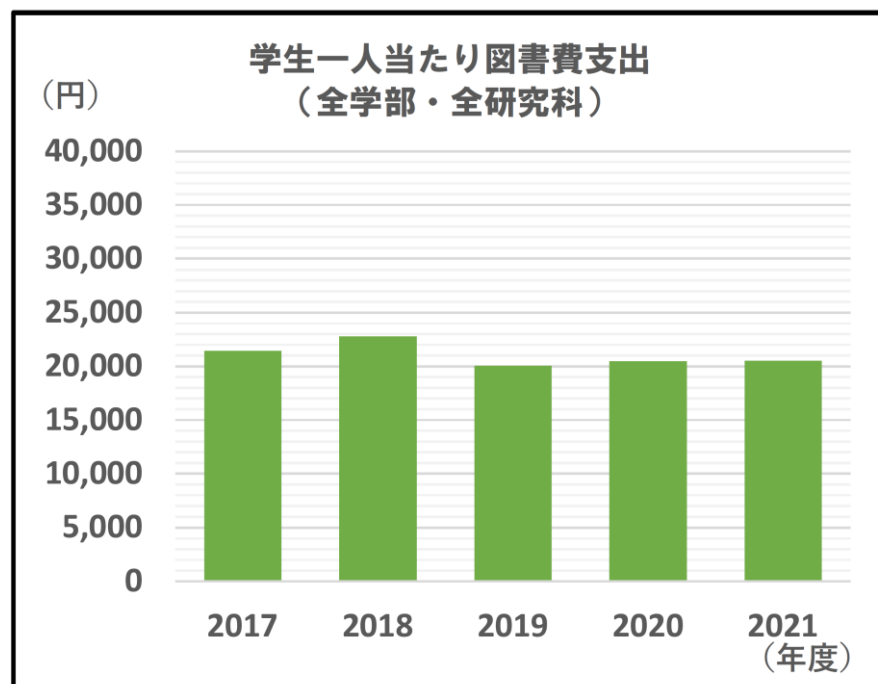
当館は……

- サービスを高度化/拡大する段階に至れていない
- 図書館の問題として意識されていない項目がある

当館が担う機能がミニマムなため、当館から
関連部署に話題提供&連携を仰ぐ必要がある

属性の似た大学の傾向を把握し、サービスの検証と点検を実施することで、サービスの拡大・変更の検討や潜在的課題を洗い出す。ただしあくまで傾向であり、より確度を高めるため、訪問調査など実態把握に努めることも重要である。

③ 決算データ【学生あたり図書支出】



算出方法：

図書費支出/在籍学生数 (5/1現在)

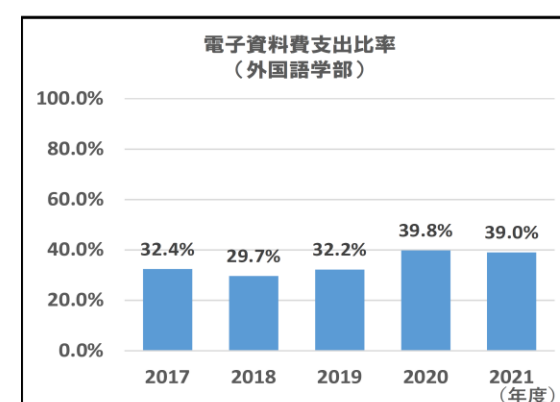
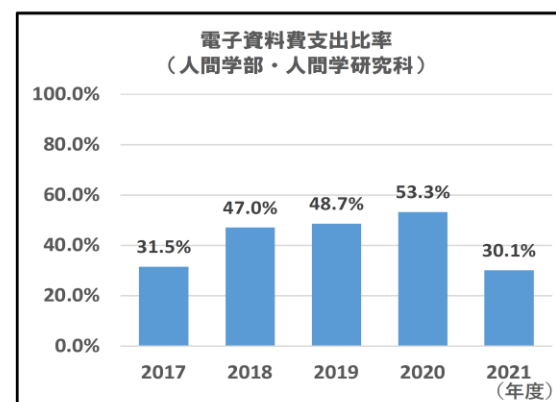
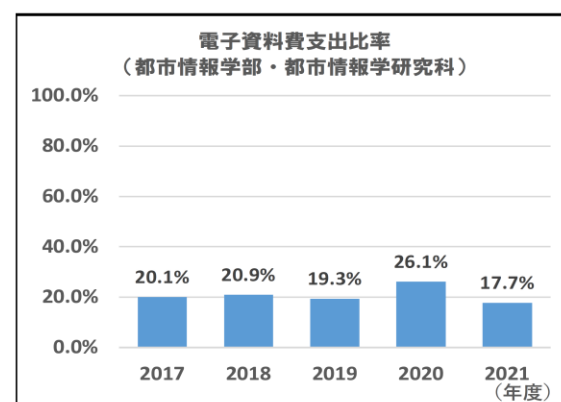
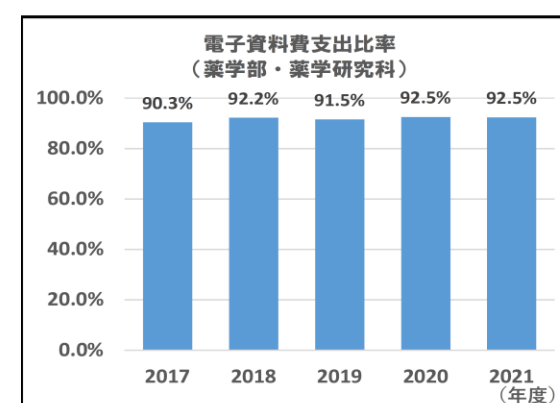
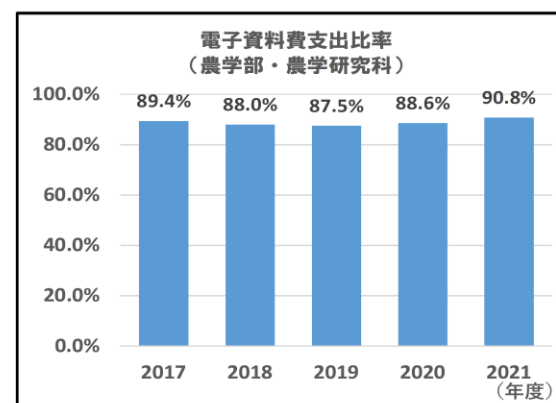
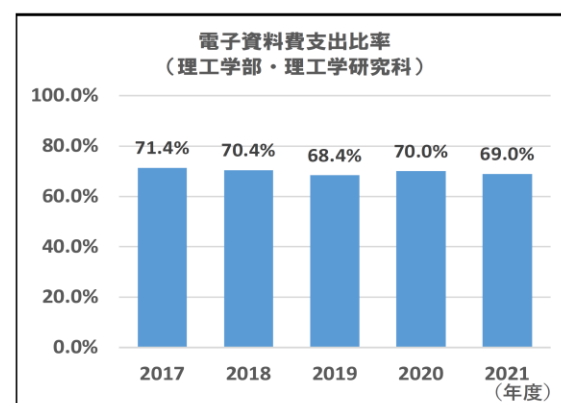
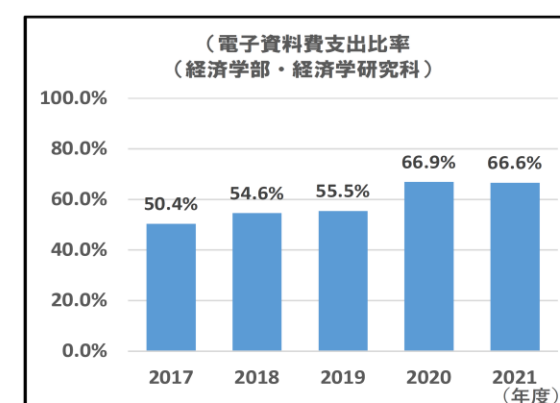
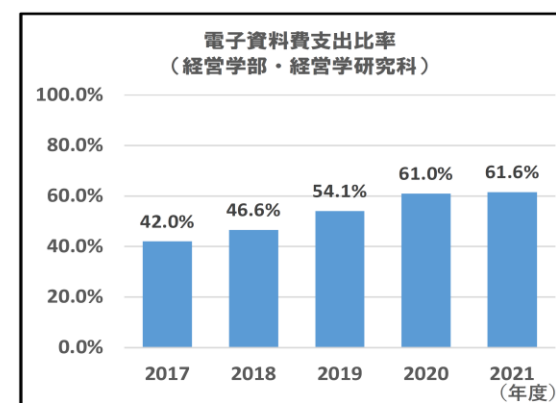
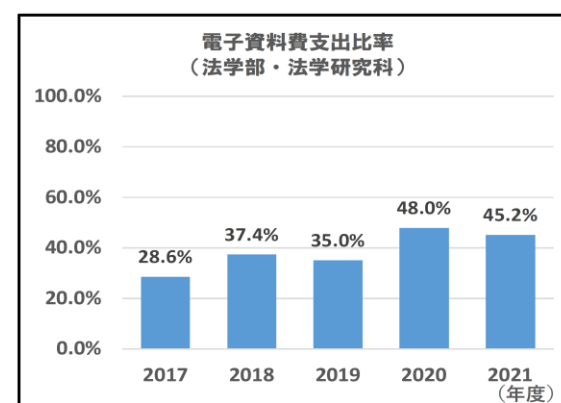
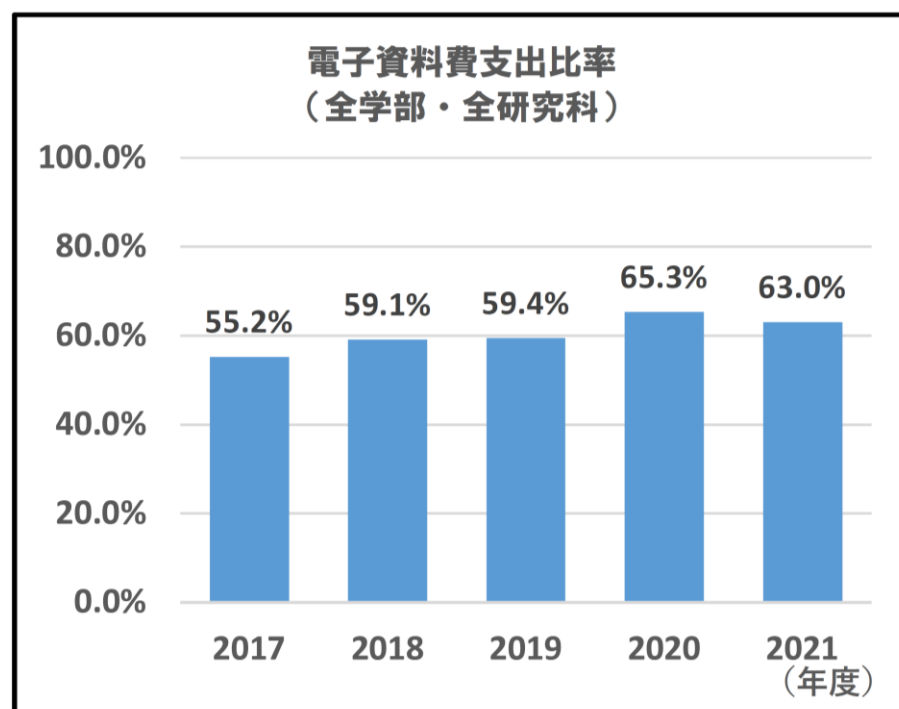
データ出典：

附属図書館決算報告書

*教職センター、附属図書館の支出分は、在籍学生数で按分し、各学部・研究科の支出額に加算している。

*総合学術研究科、法務研究科については学生数、支出額とも僅少であるため集計から除外している。

③ 決算データ【電子資料費】



算出方法：

電子資料費/附属図書館[学部]決算額

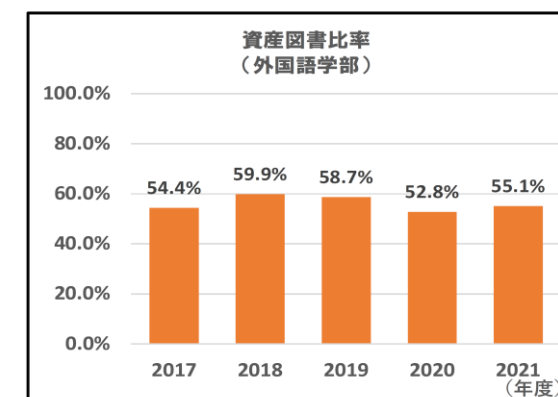
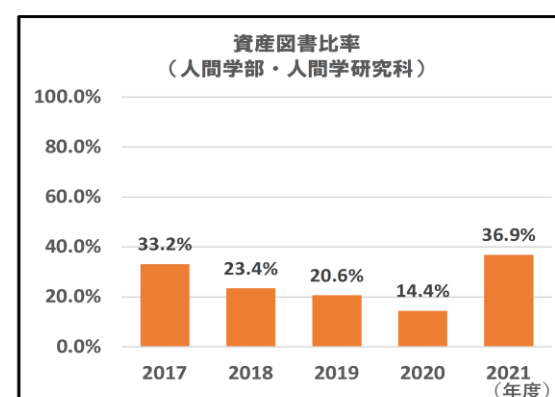
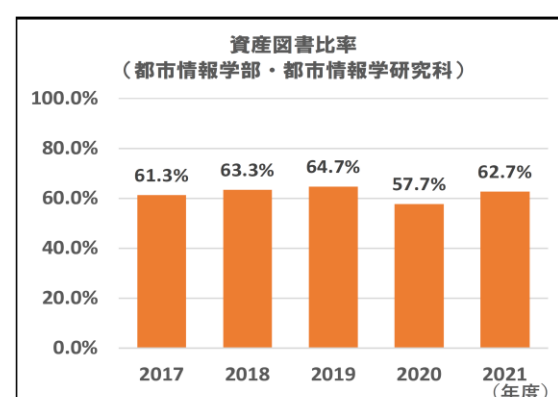
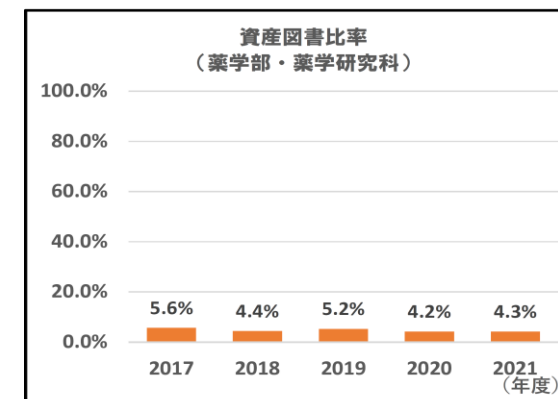
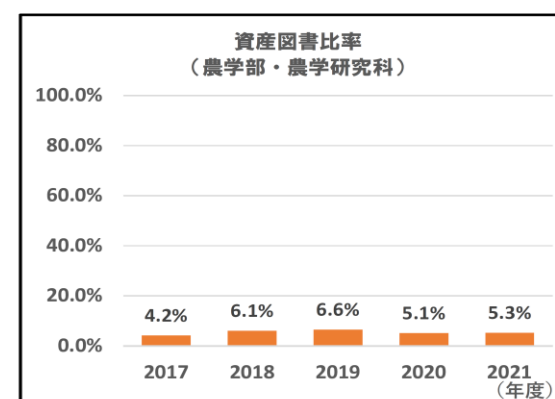
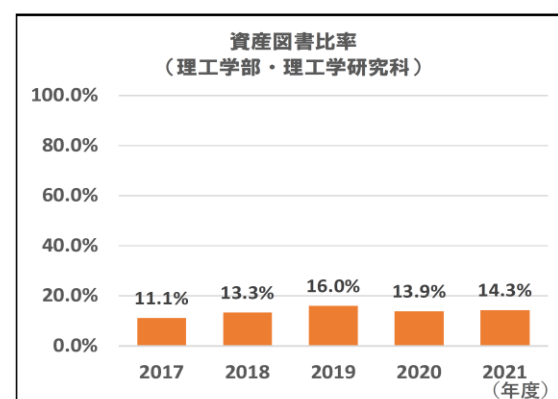
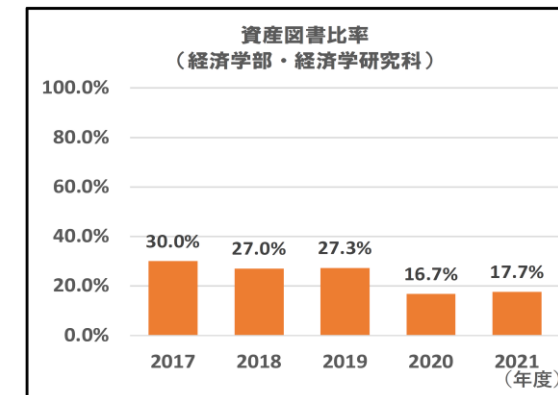
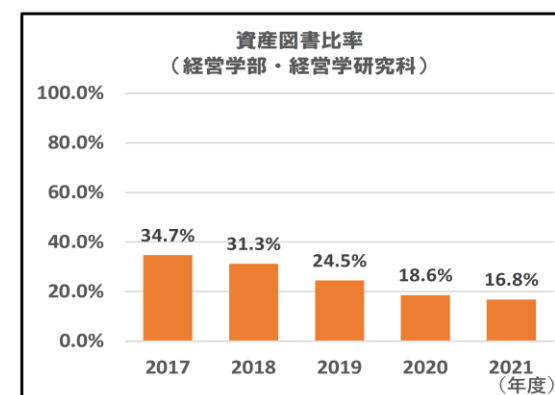
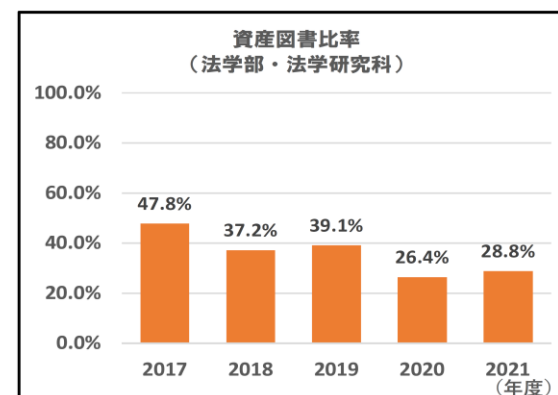
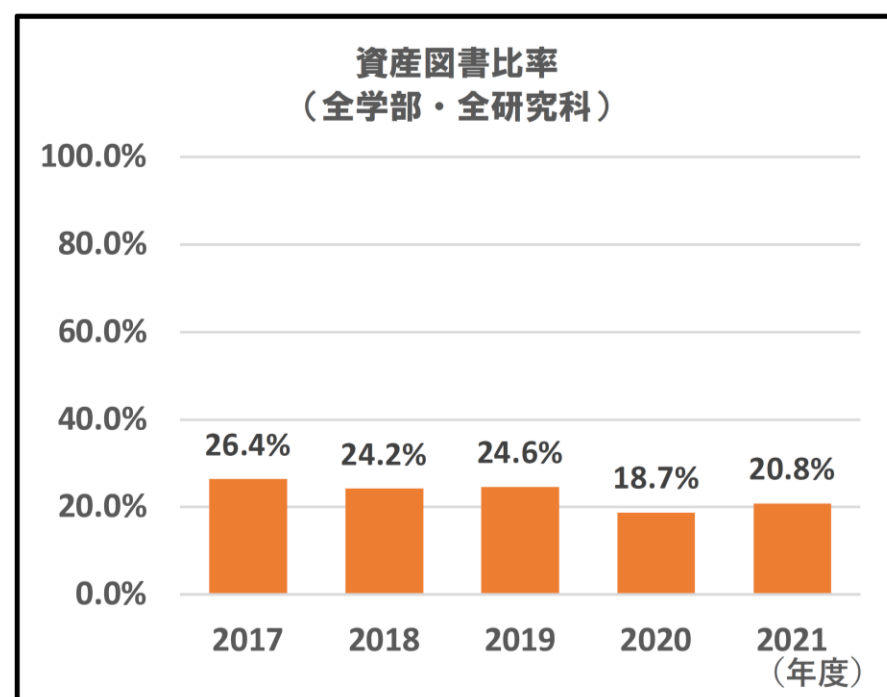
データ出典：

附属図書館決算報告書

*教職センター、附属図書館の支出分は、在籍学生数で按分し、各学部・研究科の支出額に加算している。

*総合学術研究科、法務研究科については学生数、支出額とも僅少であるため集計から除外している。

③ 決算データ【資産図書】



算出方法：

図書支出[資産]/附属図書館[学部]決算額

データ出典：

附属図書館決算報告書

*教職センター、附属図書館の支出分は、在籍学生数で按分し、各学部・研究科の支出額に加算している。

*総合学術研究科、法務研究科については学生数、支出額とも僅少であるため集計から除外している。

③ 決算データ 【まとめ】

■ 過去3年の学生一人当たりの図書支出＝約20,000円

■ 学部ごとの学生一人当たりの図書支出は微増傾向

■ 電子資料費支出が図書支出の60%を越える

■ 理系学部の予算はその大半を電子資料の購入に使用

■ 資産図書比率から見る蔵書数の増加傾向

■ 現場が直感的に理解していることを、数値で裏付けできた

■ 執行部に対し、図書館の状況をエビデンスと共に提供できる

④ 附属図書館利用者アンケート【概要】

調査目的

設備・環境整備、サービスの改善・向上に役立てる

調査対象

学部生・大学院生・教育職員・事務職員

調査方法

Webアンケート（無記名式）

実施期間

2022年5月27日～6月30日（35日間）

有効回答数

872件

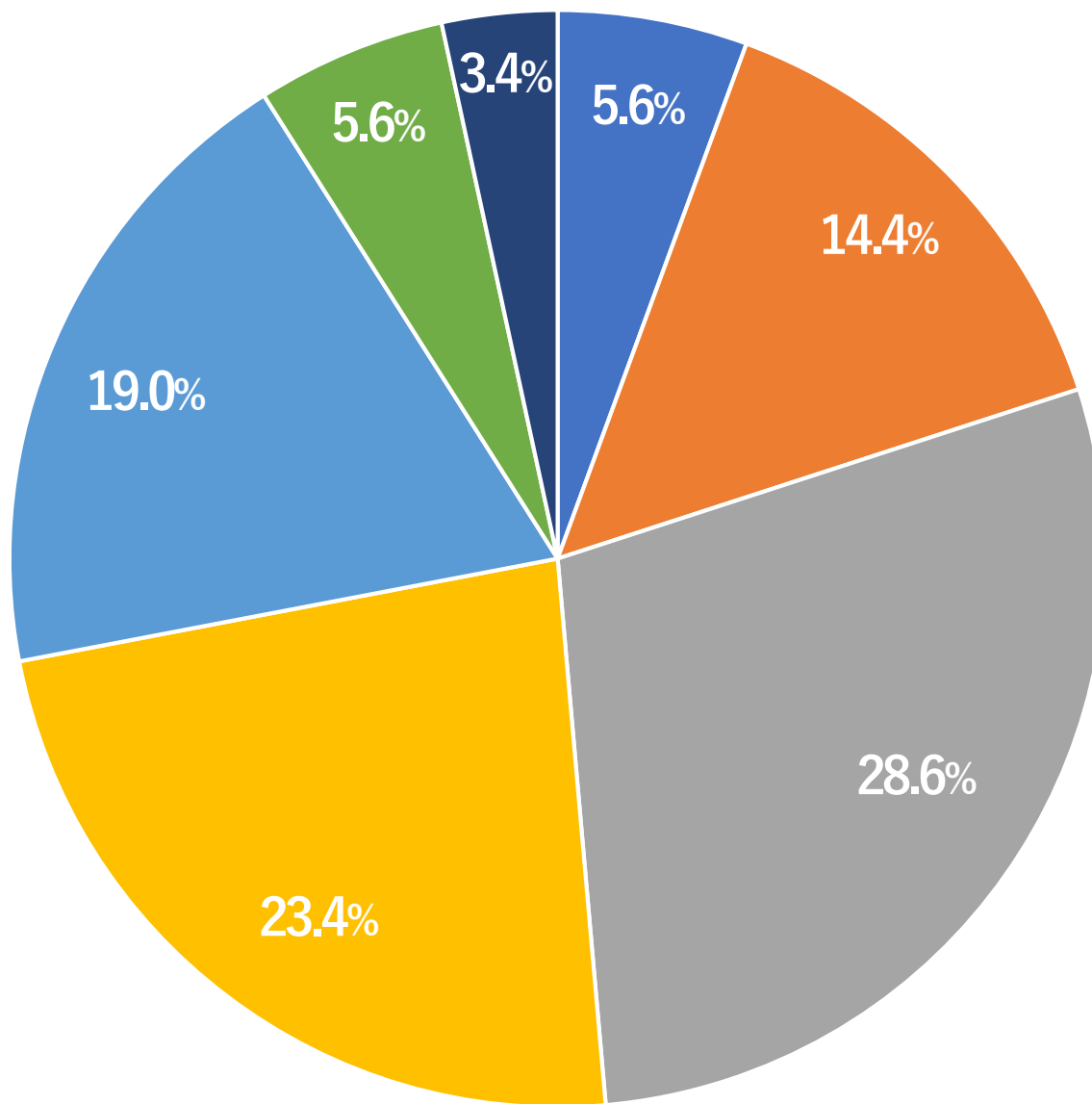
全体回答率

5.4%（872/16,102*）

*内訳 = 学部生: 14,684 大学院生: 593 教育職員: 529 事務職員: 296

④ 附属図書館利用者アンケート 【利用頻度】

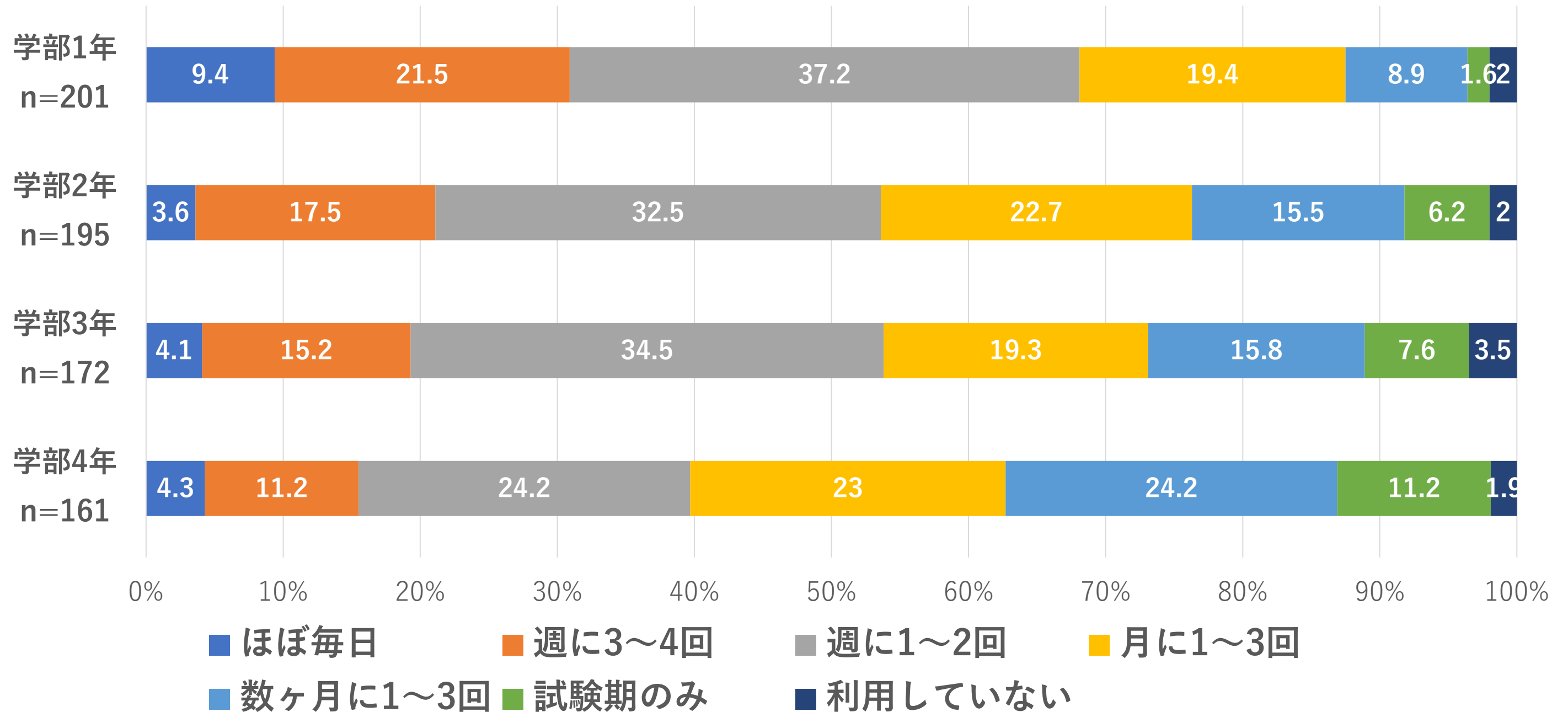
あなたは図書館をどの程度利用していますか？
(いずれか1つ)



	回答数	比率(%)
■ ほぼ毎日	48	5.6
■ 週に3～4回	123	14.4
■ 週に1～2回	245	28.6
■ 月に1～3回	200	23.4
■ 数ヶ月に1～3回	163	19.0
■ 試験期のみ	48	5.6
■ 利用していない	29	3.4
合計	856	100.0

④ 附属図書館利用者アンケート 【利用頻度】

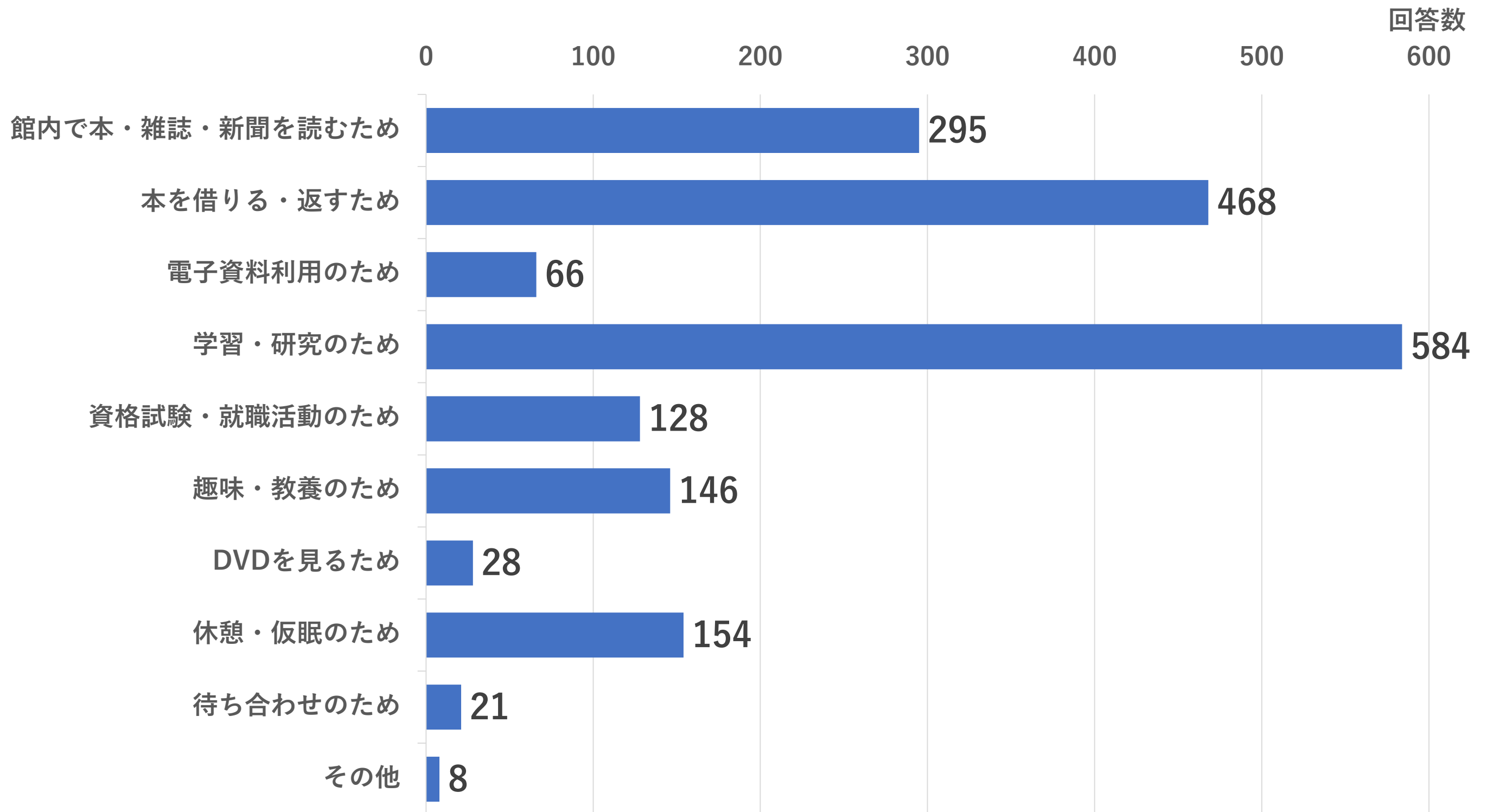
図書館の利用頻度（学年別）



大学院生は月に数回以下

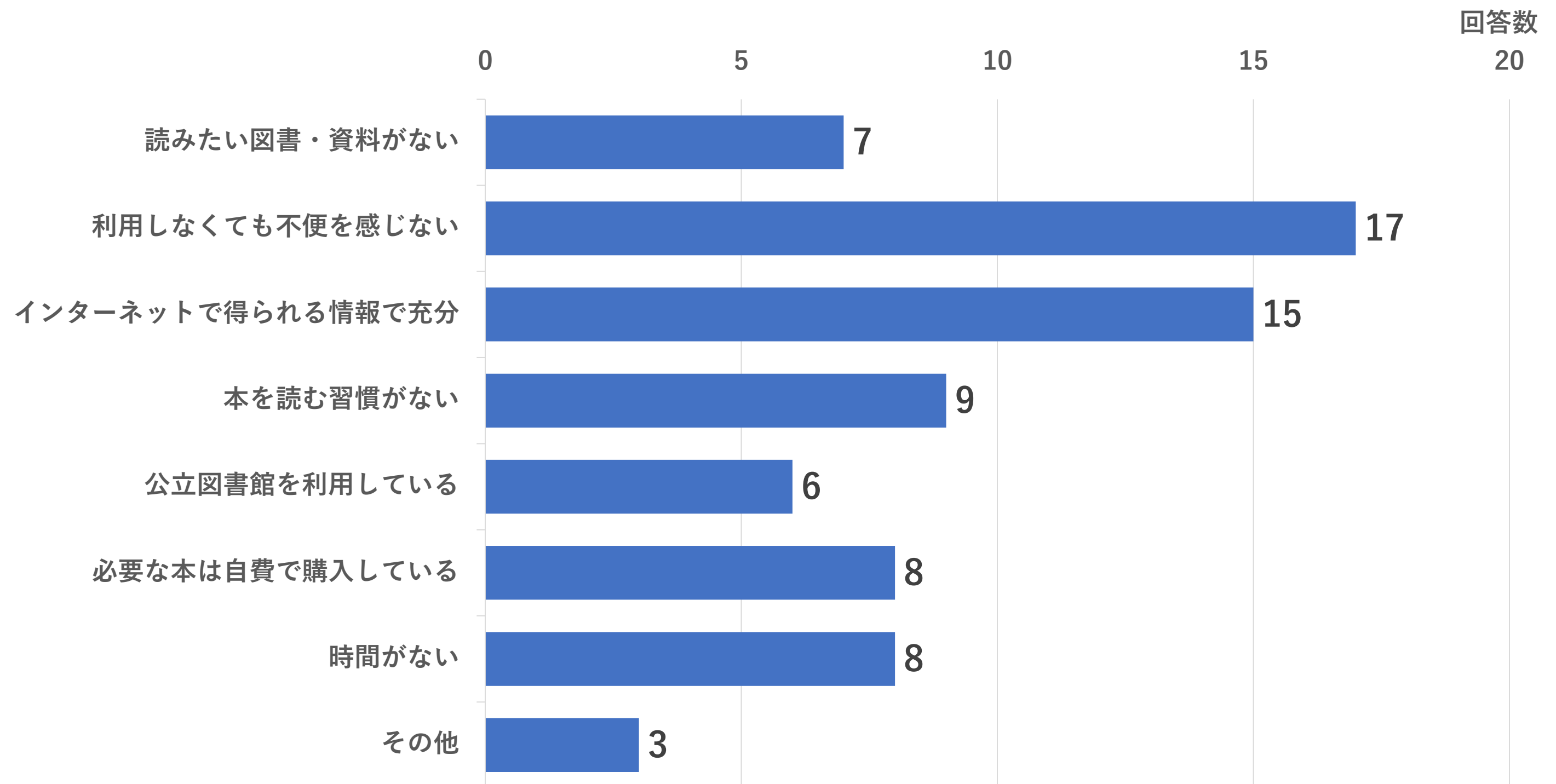
④ 附属図書館利用者アンケート 【目的】

あなたが図書館を利用する目的についてお聞かせください。（複数回答可）



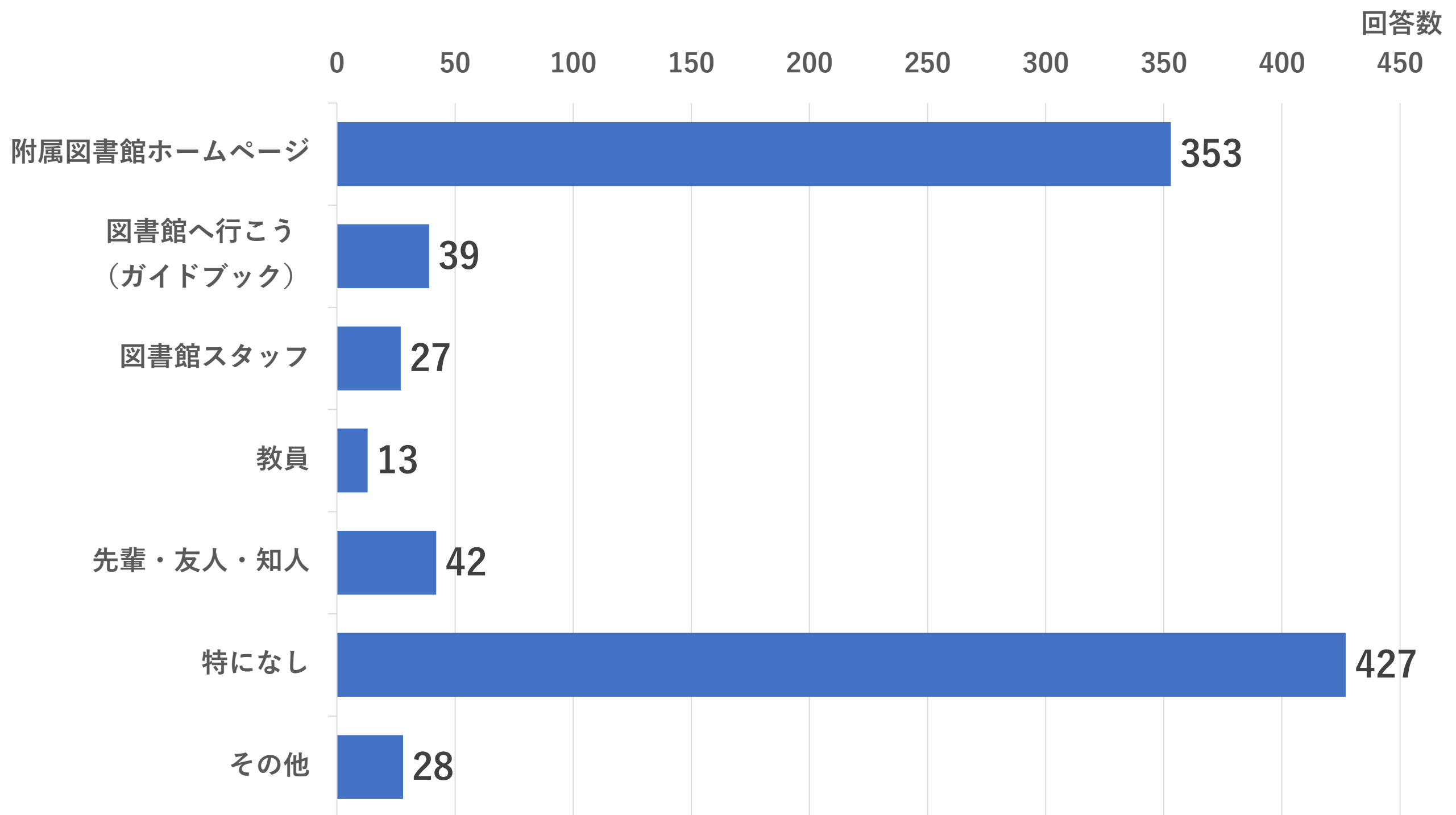
④ 附属図書館利用者アンケート 【目的】

附属図書館を「利用しない」を選択した方にお伺いします。
あなたが図書館を利用しない目的についてお聞かせください。 **（複数回答可）**



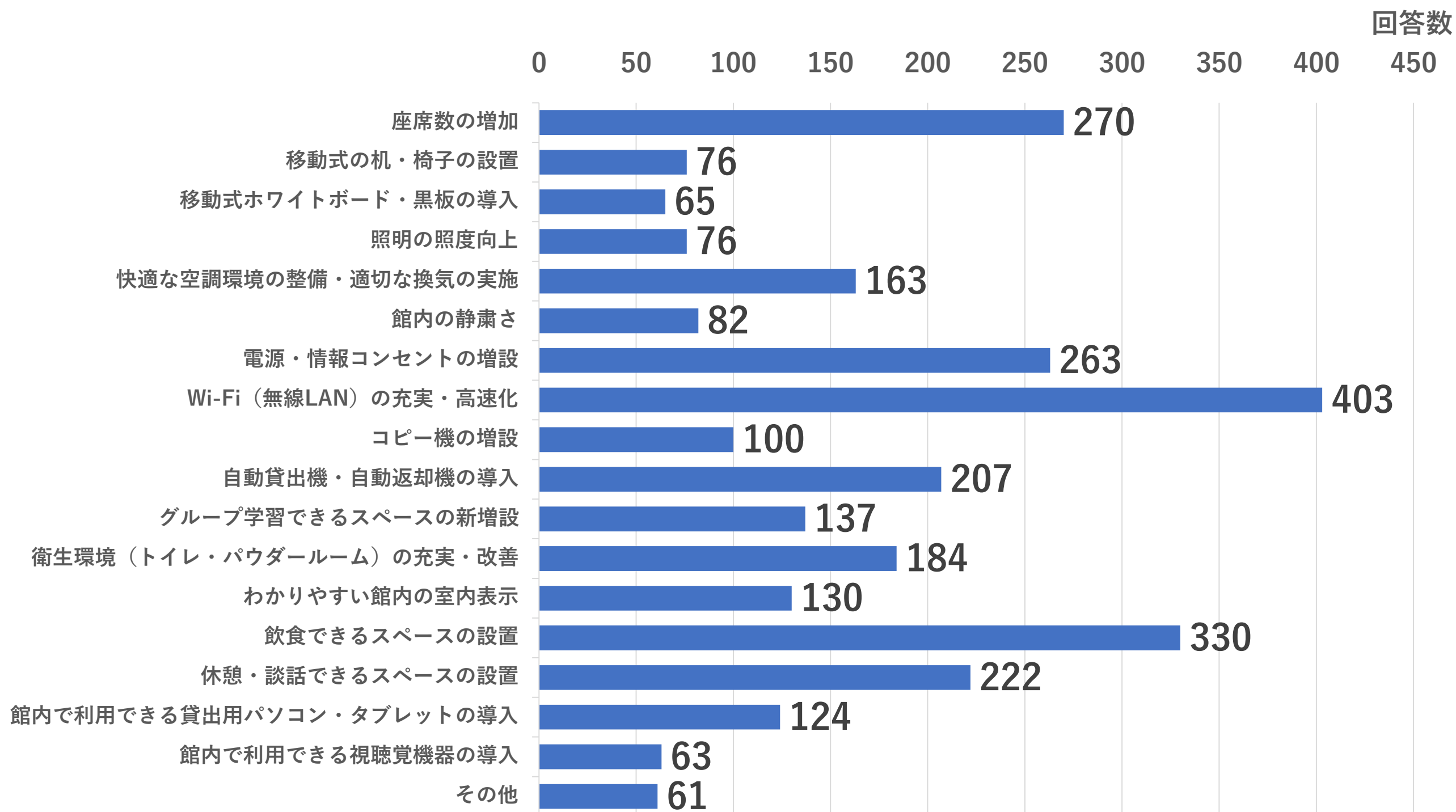
④ 附属図書館利用者アンケート 【情報発信】

あなたは附属図書館からのお知らせやサービスの内容を
どのような手段で入手していますか？（複数回答可）



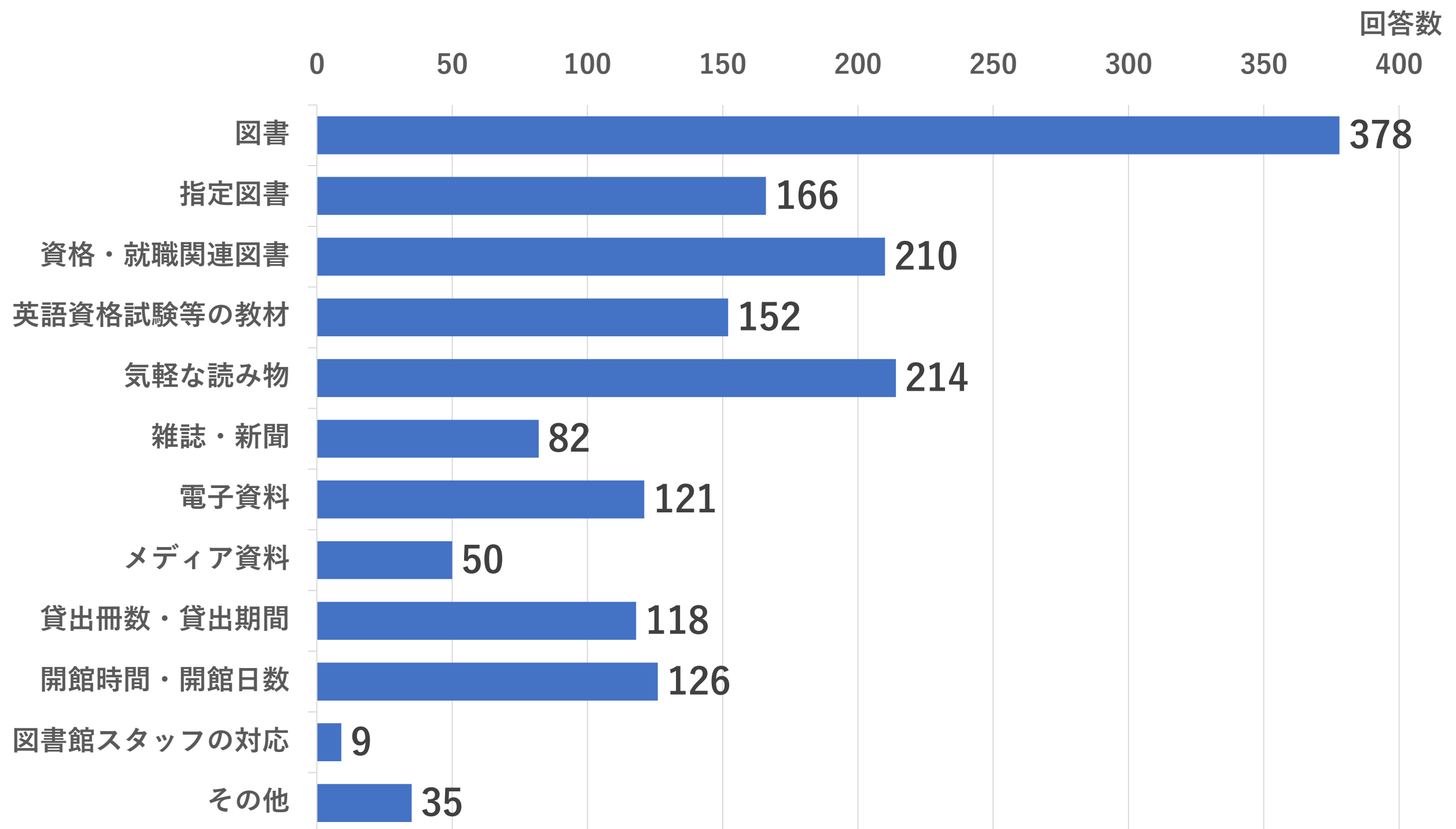
④ 附属図書館利用者アンケート 【改善】

あなたが附属図書館の環境で今後、充実・改善を望むものについて伺います。
下記の選択肢から強く充実・改善を望むものを選んでください。（複数回答可）



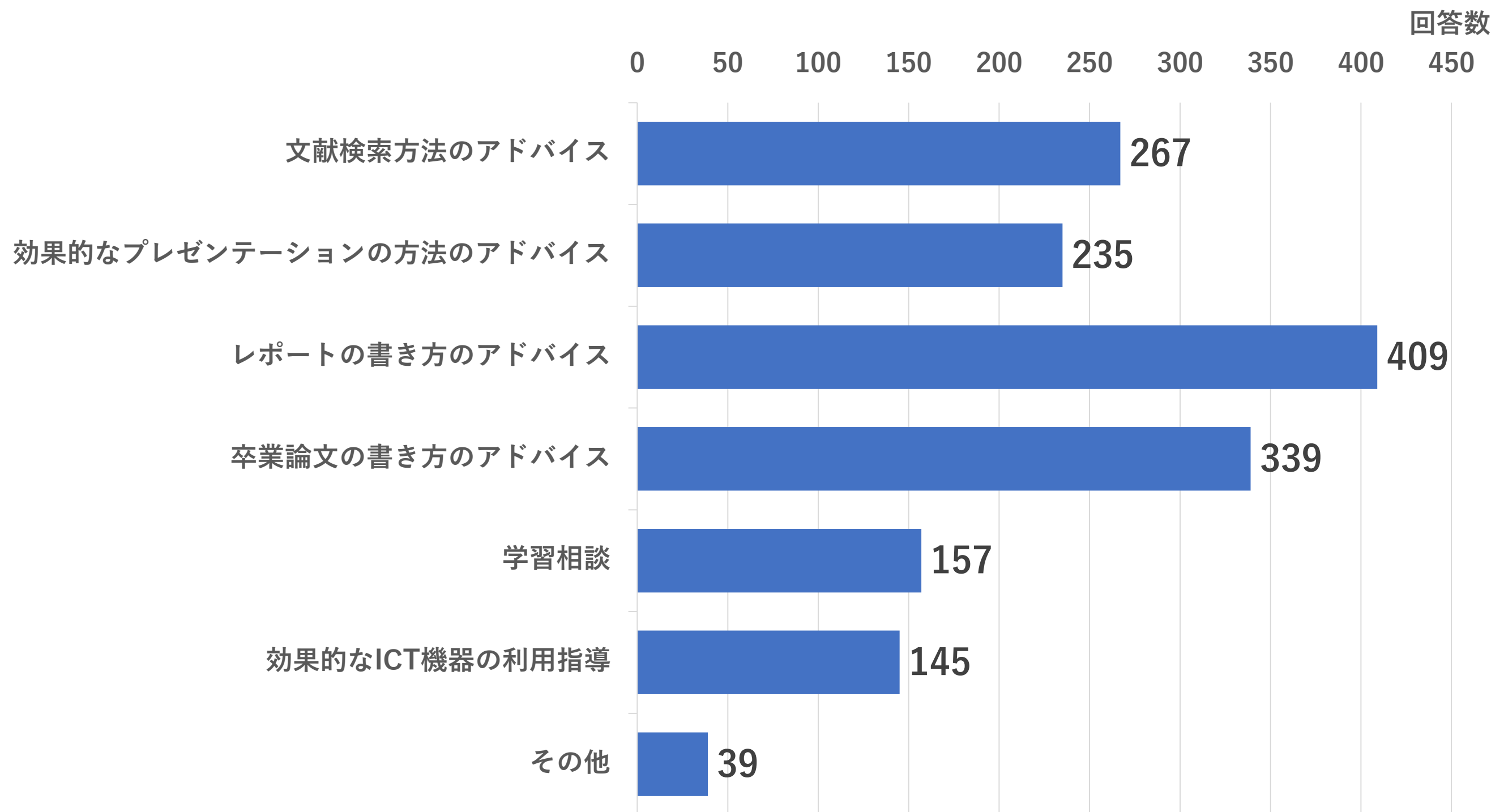
④ 附属図書館利用者アンケート 【改善】

あなたが附属図書館の資料やサービスで今後、充実・改善を望むものについて伺います。
下記の選択肢から強く充実・改善を望むものを選んでください。 **（複数回答可）**



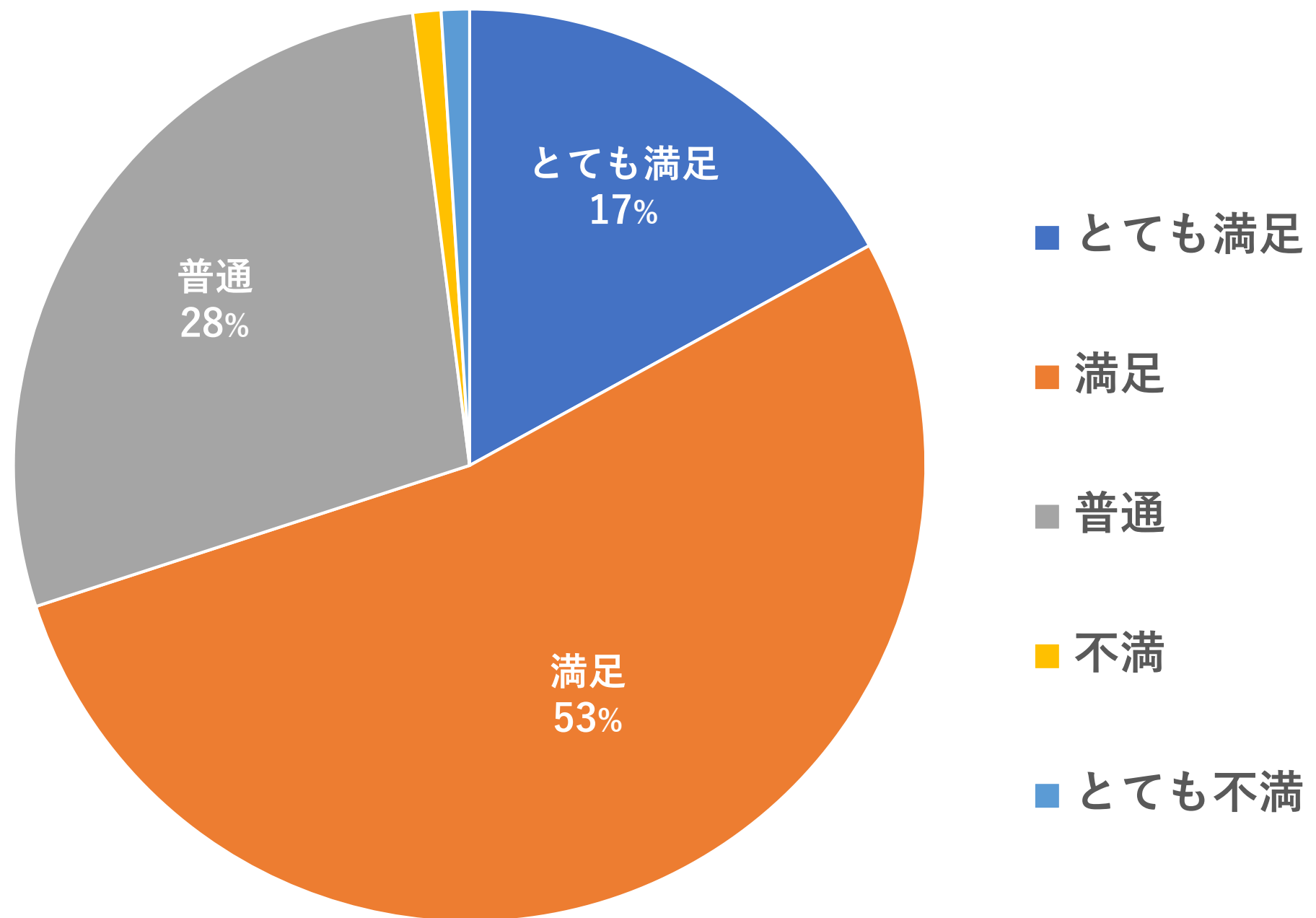
④ 附属図書館利用者アンケート 【改善】

あなたが附属図書館の資料やサービスで
今後どのようなサービスがあれば利用したいと思いますか。 **(複数回答可)**



④ 附属図書館利用者アンケート 【評価】

附属図書館におけるサービス全般の評価



④ 附属図書館利用者アンケート【まとめ】

利用状況

- 今回の対象は毎週利用している意識がある
- 学年が進行すると利用頻度が下がる傾向
- 休憩や仮眠の場としての需要がある

情報発信

- ホームページを見ることがほとんどだが
特に見ていない層が最多

図書館を利用しない理由

- 利用しなくても不便を感じない
- インターネットで充分
- 時間がない・本を読む習慣がない

改善要望

- Wi-Fi、電源コンセントの充実
- 飲食、談話できるスペースの設置
- 対面支援の充実

ある程度の傾向はつかめるものの…検証は必要

4 附属図書館利用者アンケート【反省点まとめ】

価値観を含んだ質問になっていないか？

例) ”強く”充実・改善を望む → 「強く」とはどの程度か？「充実」とはどういう状態か？

回答者に伝わるか：専門(業界)用語を使っていないか？

例) 「機関リポジトリ」「データベース」「ICT」「配架」「OPAC」「指定図書」など

ダブルバーレル質問(2つ以上の項目を含む質問)をしていないか？

例) 電源・情報コンセントの増設 → 片方しか望まない場合はどう答えたら良いのか？

選択式であることのメリット・デメリット

例) 電子資料と紙資料、どちらが望ましいか？ → 選択肢があると、関心が薄くても回答可能。聞き手の理解度は？

理由を直接聞く：強い理由がある行動とは限らない

「何かをしないこと」には、強い理由がないことが多い。

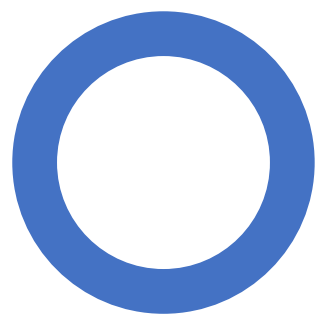
未回答者バイアス・自由回答の取り扱い

そもそも回答をくれる学生は好意的。回収率も低い中、それらを代表的意見として扱うのか、それとも個人の感想と取るか。

④ 附属図書館利用者アンケート【反省点まとめ】

最大の反省点

「何のためにアンケートを実施するか？」がブレたこと
根拠作りなのか、課題を探ることなのか。



改善を要望している人数が知りたい

例) レポートの書き方のアドバイスには400件も要望がある → 施策の根拠になる

»» こちらの想定外の要望までは引き出せなかったもので、さらなる検証が必要



全体の傾向をつかむ

例) 年次が低いほど来館頻度が高い → 今回の調査だけでは言えない

»» 長期的な調査など、統計処理可能な調査手法を選ぶ必要がある

参考にできる部分は活かしていく

⑤ 4つのデータからわかったこと

わかったこと

- 自大学の基礎情報
- 決算データによる活動の数値化
- 同規模大学の状況(課題やサービス)など
- 利用者のニーズ(の大きさ)

わからないこと

- 利用者全体の傾向
- 数値が示すものの実態
- 未回答者の傾向
- 他館との満足度の比較

»» データの見極めが大事。数値は仮説の素材とする。

»» 意思決定のエビデンスにするなら
ヒアリングや観察など、仮説を丁寧に検証していく作業が必要。

⑤ 4つのデータからわかったこと【対策の検討】

情報
発信が弱い

SNSなら
本当に見て
くれるのか？
なぜしないのか？

座席が
少ない

少ない理由は？
なぜ少ないと
感じている？

利用者が
少ない

他の場所で
勉強してる？
入りにくい？

リクエストが
わかりづらい

わかりやすく
すれば増える？

講習会等の
参加者の
少なさ

広報の問題？
そもそも
ニーズが無い？

まず「原因」を丁寧に探ることが重要

3

“データ活用の実務”で感じたこと

3 データ活用の実務で感じたこと

調査の目的をしっかりと定める

- 課題を発見し、課題解決のヒントを得るために調査設計&データ収集
- 強く推進したい施策があるなら、エビデンスのために様々なアプローチを検討

切り取りや都合の良い解釈は厳禁

- 執行部が判断を誤る原因になってしまう
- 数値や結果に囚われず、原因の究明とPDCAを回すことが大切

アンケートは細心の注意を払う

- 結果の分析よりも、設計と回収に労力がかかる

＼ご清聴ありがとうございました！／

